

AAR（ワクワクする⇒行動する⇒振り返る）に無限大の可能性

西谷咲希、看護師

実家から徒歩1分の河川敷が、最初のスライドに、出てきたことに衝撃を受けました。

できた当時は高校3年生。受験期でストレスも多く、毎日のように河川敷に通い、リフレッシュしていました。自分にとってすごく好きな場所でした。

その背景には「生活の専門家である市民」の想いがあるとうかがって、さらに好きになりました。実家に帰り、河川敷に行きたくなりました。今でも実家に帰った時には、必ず立ち寄る場所、私の居場所になっています。そして、私のその【居場所】をたくさんの人に紹介したのも覚えています。大学生の時の新歓にも利用しました。そんな思い出のある場所になっていました。

AIが世の中に普及されてきている中、AIに取られない要素の一つは『つながり』だと考えています。コロナの影響もあり、オンラインが普通の世界になっています。そのため、繋がりが最小限になり、一人での生活を強いられるためか、孤独死や自殺が増えています。そう考えると、【繋がり】は絶対必要なことと考えます。そして、繋がりを作っていくには【居場所】が必要。【居場所】は非常に大切で、生きるためになくてはならないものだと思います。

自宅や会社はもちろん居場所ではありますが、それ以外の居場所【サードプレイス】を作ることは、つながりがうすくなっている現代では非常に大切であると感じています。

私は看護師1年目の時に、知り合いもいない中、初めて上京し、看護師としてもうまく行かず苦しんだ時期がありました。そんな中で病院外に居場所があり救われたことをすごく覚えています。

タバコを吸うより、繋がりがいい人の方が病気になりやすいとも言われています。だからこそ、人と人との繋がる場所を作る【居場所】を作れるようになりたいと私も思っています。

これまでイベントを主催したこともありましたが、ただ、医療従事者や意識が高い系が集まり、元からそれらを知っている人ばかりが集まっていました。

講義をうかがって、今まで関わることのなかったフィールドの方を集める方法や生活の専門家である地域に住む人を主役にして進めていく方法を知ることが

できました。

今まではどうやって人を集めようと試行錯誤していましたが、studio-Lさんは人が興味をあることをしていくことで人は自然と集まってくることを利用してプロジェクトをされているように感じました。

それは、どうしたら人が集まってくるのかを考えることが大切であり、自分の地域のことだったら興味を持って取り込むことにつながり、地域診断のハードルを下げて、普段どんなものを食べているか、着ているか考えてみるというだけでもワクワクし、地域のことを身近に知ることにつながると感じました。

そして、【AAR】というサイクルは初めて聞きました。

すごく素敵で可能性は無限大だと感じる事が出来ました。

私は、何かしたいけれど何もできないというモヤモヤ期に今います。まず、教えていただいたロイダッツに参加させていただき地域のことを知っていきたいと思います。

講義で教えていただいたことがたくさんあります。

例えばスマホの扱い方について次の日に利用者様に聞かれたので「ハンドクリームを塗って手を温めると動きやすくなる」と伝えさせてもらいました。そして自分も利用者様の笑顔に救われ、楽しく仕事をする事ができました。

人は人との繋がりが本当に大切で、どちららが上、などの上下関係があるわけではなく、お互いに持ちつ持たれつであるからこそ、生きられる生き物だと改めて感じました。

今回も素敵な講義を聞いてワクワクしております。

聞いて終わりだと意味を成さないなので、少しでもアウトプットできるように行動していきます。本当にありがとうございました。